

令和5年度 西予市地域貢献研究事業実績一覧（概要）

	所属・氏名	研究の名称	補助額	目的・研究概要	成果・期待される効果
1	愛媛大学 大学院教育学研究科 (教職大学院) 【准教授】 兵藤 清一	次代の西予市を作る子どもたちの情報活用能力育成のためのカリキュラムモデルの開発	305,500円	次代を担う子どもたちが、人口減少等による西予市が抱える問題を解決していくために必要不可欠な情報活用能力（情報や情報手段を主体的に選択し活用し、新たな知識や情報などの創造・発信や問題の解決につなげていく力）を育成していくため、西予市版「情報活用能力の体系表」を開発し、西予市立学校のカリキュラム開発の取組に資する。	先進校（新潟市上所小）の取組を参考に、問題解決・探究のプロセスに即して、育成を目指す情報活用能力の要素としての資質・能力を具体化・体系化・重点化し、「問題解決・探究の過程に即した情報活用能力の体系表」を開発し、具体的・体系的なカリキュラムモデルとして示すことができた。研修等で活用することにより、各学校の「情報活用能力育成カリキュラム」の開発に活用することができ、子どもたちに、西予市が抱える問題の解決に向けて必要となる情報活用能力が身に付き、次代の西予市を創る人材として成長していくことが期待できる。
2	愛媛大学 大学院医学系研究科 地域医療学講座 【教授】 川本 龍一	西予市地域包括ケアにおける在宅ケアを推進するための多職種連携活動に関する調査研究	13,030円	保険・医療・福祉に関する各職種に対して、連携に不可欠な課題や解決策に関するアンケート調査や各職種が集うワークショップを開催し、地域包括ケアの充実のための現状と今後の課題を抽出し、解決のための方策を明らかにする。	多職種連携活動を円滑に行うための事業として西予市多種連携地域包括ケア研究会を設立しWebでの講演会を企画し、年間4回に渡り実施した。それにより、多職種の役割や活動を知ることにつながり、連携の輪が広がっている。現在の連携による課題の抽出とその改善策が明らかになることにより、地域包括ケアの地域連携の改善を図り、過疎地域における少子化、超高齢社会において、地域住民が人生の最後まで安心して暮らせる社会づくりの構築に繋がる。
3	愛媛大学 大学院医学系研究科 疫学・公衆衛生学講座 【助教】 木原 久文	エビデンスに基づいた保健施策の実現へ向け～リアルワールドデータと愛大コーホート研究を活用して西予市から世界へエビデンスを発信する～	235,180円	愛大コーホート研究のベースライン調査に参加した西予市民を対象として5年目の詳細な追跡調査を実施。収集したデータおよびリアルワールドデータを活用し、量と質の両方を兼ね備えた真のヘルスビッグデータを構築することで、市民の健康増進に寄与することを目的とする。	研究のデータを活用して創出したエビデンスをまとめ、わかりやすい解説を付したニュースレターを研究参加者へ送付。愛大コーホート研究で収集したデータおよびリアルワールドデータを活用することで、新たな健康問題を明らかにしたり、健康問題の集積している地域や社会層を明らかにすることにより、市が重点的に取り組むべき健康課題を分析することができる。また、生活習慣病のリスク要因を明らかにすることで、エビデンスに基づいた保健指導や保健介入の可能性を高め、効果的な西予市民の健康増進策を提案することができる。

※申請順

※所属は申請時点



令和5年度 西予市地域貢献研究事業実績一覧（概要）

	所属・氏名	研究の名称	補助額	目的・研究概要	成果・期待される効果
4	福山市立大学 都市経営学部 【講師】 宮前 良平	大学のない地域における「域学連携」効果についての研究 ～名産品創成イベントをとおして行うアクションリサーチ～	283,693円	「地域」に学術的専門知識を持つ「大学」が、イベントをともにつくるなかで生み出す共創ネットワークについて検証する。がいなんよ大学を開催する学生が、地域の飲食店や高校生とイベントを行うなかで生まれる効果をアンケートにより検証。また、野村の銘酒「緒方洪庵」や、醸造の際に生成される酒粕を有効利用した野村らしい料理や土産物の考案を企画し、西予市各地域で特産品や土産物をつくる際の連携事業モデルを目指す。	野村町の名産品創生イベントの実施により、野村の人気店で、日本酒緒方洪庵ならびにその酒粕を使った野村の新名物となる一品を考案。試食後のワークショップでは、参加者同士がすでにある野村の名産品を考え、どのようにすればより魅力的になるかを考えたり、地域の魅力を再発見する機会となった。イベントで関わった大学生は野村町への愛着が高まっており、関係人口の創出に寄与し、地元高校生たちにも好影響を与えている。西予市の子どもたちにとって「大学」がさらに身近で前向きなものと感じると同時に、地域で働く方々の仕事や地域に対する思いを密着してうかがうことで、中高生が将来ビジョンをリアルに考える一助となる。
5	大阪大学 人間科学研究科 【教授】 川端 亮	被災地における若者の体験伝承意識に関する比較研究	256,740円	昨年「全国高校生まちづくりサミットinのむら」を企画実施した市内高校生や、今年度岩手で行われる「全国高校生まちづくりサミット」に参加する高校生に対してインタビューを行い、高校生の災害に対する意識を聞き取る。西日本豪雨災害、東日本震災を実際に経験した若者の意識調査を行い、体験伝承を効果的に行うために必要なものは何か、自分ごととして考えることができる防災教育を行うために必要なものは何かについて考察を行う。	研究の成果を「地域内外の若者が共創する防災教育－大学生伴奏者が見た西予市と久慈市における高校生の交流から－」と題した小冊子にまとめ、西予市野村支所で開催された地域教育実践南予ブロック集会で発表した。高校生たちは、岩手県における災害や防災について学び、異質な災害を経験している同世代との意見交換を通して、自身の防災意識をアップグレードし、地元愛ともいえる自身の地域への考えを振り返るきっかけとなった。地元愛の育成、関係人口の増大、主体的視点の獲得は、防災以外の西予市の社会課題の解決にも寄与しうる。
6	愛媛大学大学院 理工学研究科理工学専攻 【教授】 堀 利栄	四国西予ジオパークにおける古生物学的学術価値の再検討	150,603円	四国西予ジオパーク内にて古生物・地質学的総合調査を地元と連携して実施し、従来の四国西予ジオパークの学術的魅力に加え、最新の古生物学的視点から、新たな世界的学術的価値を発見し新知見を発信することを目的とする。 (1) 明浜に分布する化学層序の検討 (2) 西予市ジュラ紀後期鳥巢式石灰岩中の含有化石の総合的検討 (3) 城川町の中生代砂岩中の含有化石の産状と古生物学的検討	ローザンヌ大学名誉教授であるピーター・バウムガートナー博士と共に調査を行い、西予市西部蔵貫石灰岩には、世界でも稀な中生代ジュラ紀後期の祖先型厚歯二枚貝が産出している事が判明し、ジオサイト登録に至る原動力となった。本研究で明らかになった成果は地球環境史学会や日本古生物学会例会で発表され、EGU（欧州地球科学連合）でも紹介される予定であり、四国西予ジオパークの学術的価値の向上に寄与した。今後、西予市西部海岸地区の学術的価値を高め発信すると同時に、産地周辺の自然保護や自然景観を壊さないジオトレイル等の整備を進め、海外の知識人向けに対応可能な宿泊等の環境整備を進めることが出来れば、ジオパークの活性化役立つ可能性がある。

※申請順

※所属は申請時点

